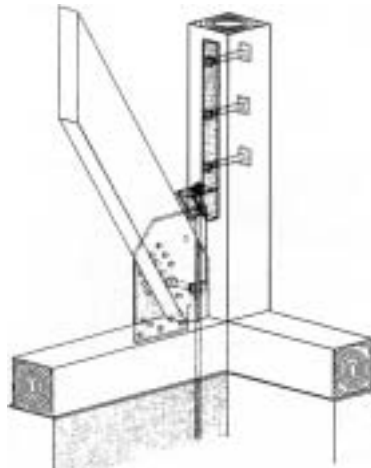


北海道住宅新聞

発行所
北海道住宅新聞社
〒001-0029 札幌市北区北29条西4-2-1-201
電話 (011) 736-9811 (代表)
発行人 白井 丞
発行日 毎月 5、15、25日
購読料 送料共1ヵ月3,150円

建築基準法改正に伴う告示により、従来まで明確に示されていなかった木造建築物の筋交い端部、柱頭と柱脚の仕口・継手の具体的な仕様が明示され、昨年の六月一日から施行、義務化された。これに伴い住宅金融公庫の仕様書も昨年八月発行の第1版から変更になっている。新しい基準では、二階建て住宅でも柱頭・柱脚に引き寄せ(ホールダウン)金物が必要になったことから、「基礎と柱をうまく繋結できない」「ホールダウン金物が多すぎて、作業がはかどらない」などの問題も発生している。そこで、この特集では告示内容のわかりやすい解説に加え、明らかにしてきた問題点とその解決方法を中心にまとめる。とともに、納まりや強度に配慮したZマーク同等認定製品など、「お助け金物」を紹介する。(特集は四、五面に続きます)



45×90mmの筋交いを使用した場合の1階出隅の仕様
筋交い端部は筋交いプレート (BP-2) で止め付け。筋交いが取り付く柱にはホールダウン金物を設置し、基礎から立ち上がるアンカーボルトとしっかり繋結する
※ホールダウン金物が筋交いや筋交いプレートのボルト等に当たることのないよう、長めのアンカーボルトを使うことが必要

問題点の解決と ‘お助け金物’

筋交い端部は従来「鉄丸釘で止め付ける筋交いプレート」が、一般的だったが、告示に明記された新しい基準では、「二〇×九〇」や「四五×九〇」材など通常の筋交いでも、「ボルトで止め付ける筋交いプレート」が義務化されたほか、柱頭と柱脚の仕口・継手については、筋交いの種類や仕口の箇所によっては、これまで木造・階建て住宅用として使われていたホールダウン金物の使用が義務付けられるなど、これまでの

基準法改正後の 軸組み接合金物



一般的な庫庫仕様に比べてかなり強化されている。

一般的に比べてかなり強化されている。筋交い端部の仕様からみると、「二〇×九〇」の筋交いの場合、「一・六」厚以上の鋼板を介し、筋交いには「二のボルトおよび太め鉄丸釘六五」×三本、柱には太め鉄丸釘六五」×三本、横架材には太め鉄丸釘六五」×四本打つ」と規定されている。

品質とコスト

戸建木造住宅の

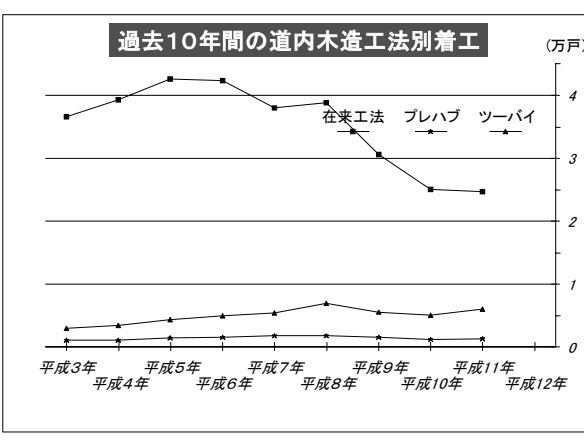
住宅のストックは、既に世帯数を上回っている。平成十年の空家比率は、総務省調査によると、全国では一・四%、北海道は一・三%に達している。

新築は大幅減少 在来木造が不振

平成九年以降の新設住宅は大幅に減少。同十二年の道内は昭和四十二年並みの五万三千八十戸。木造は二の七七%から六・%に、戸建は六九%から四五%に

(3)

成熟市場へ移行 世帯が戸数上回る



く、高齢の層ほど在来指向 得層が若年化している中で、が高くなっている。次取 注目される傾向だ。

まだ欧米の二倍 日米は百万市場

日本と欧米の新設住宅を比べて見ると、人口千人当たりでは、好調のアメリカは六、七戸へ。不況の日本は、二、三戸へ。ドイツとフランスは五戸、イギリスは三戸前後。人口比で日本は欧米の二倍の住宅が建っている。

年間百万戸以上は日本とアメリカだけで絶対量では大差ない。ドイツは東京、千葉、神奈川県、埼玉、フランスは東京、千葉、神奈川県、イギリスは東京、千葉、各都県の合計に相当するポリニュームだ。

壁パネルをフラットに直張り。

板厚0.6ミリの接合金物

エーステンプレート

Zマークかど金物同等認定品

パネ用ステンレス鋼が高い耐力強度と板厚0.6ミリを実現。土台と柱・柱と横架材を強固に接合し、壁パネルの直張りがフラットに仕上がる。ビス頭が四角穴なので十字穴と比べて作業性が向上。

エーステンプレートは、土台と柱・柱と横架材を接合する金物で、従来の箇所には、山形プレート、かど金物等が使用されてきましたが、これらの金物に比べ取付作業が簡単でしかも取付耐力が向上することになります。また金物本体の材質に「パネ用ステンレス鋼」を採用することで板厚0.6ミリを実現し、壁パネル等を直張りで成形しやすくなります。